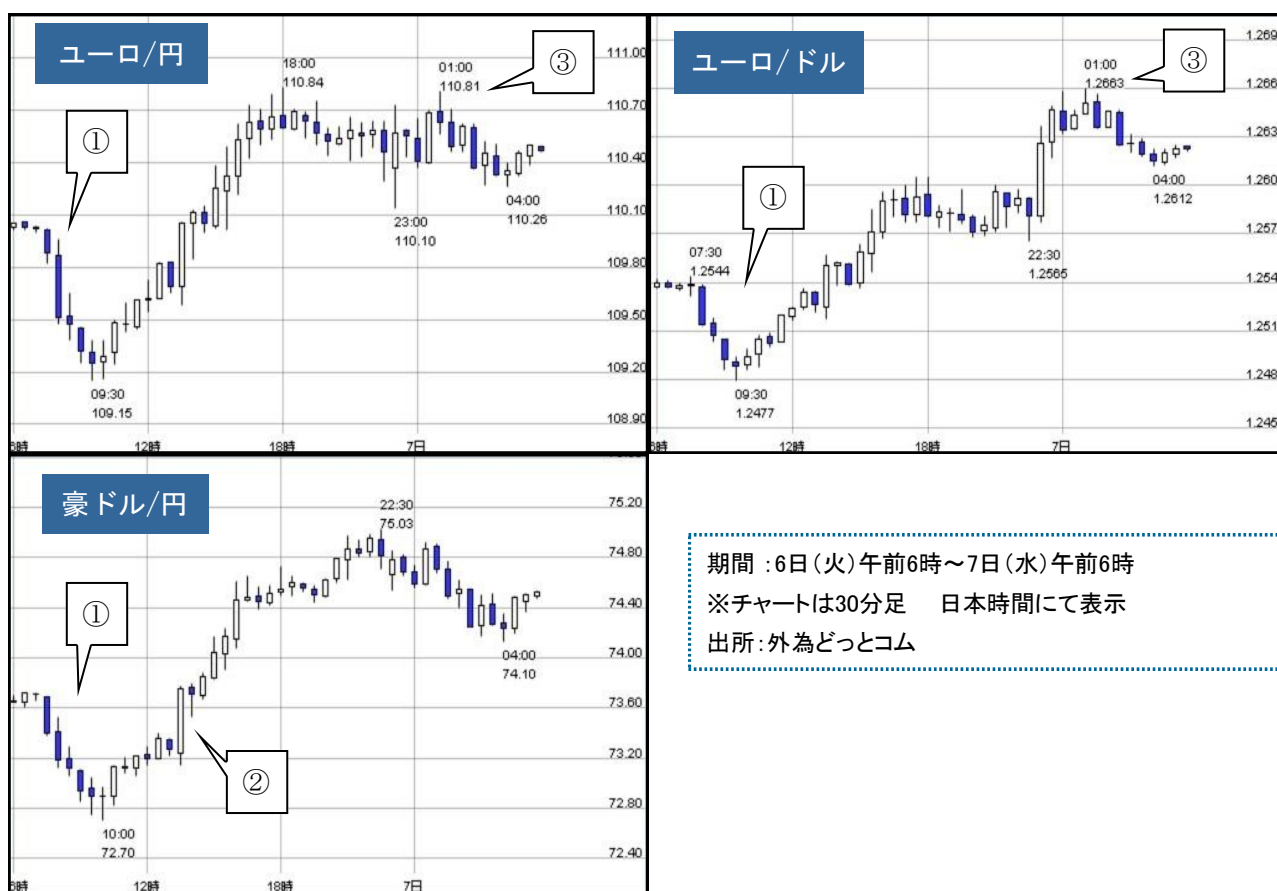


7月7日(水曜日)  
ユーロ/円  
ユーロ/ドル  
豪ドル/円

## 中国の動向に注目が集まる

### 6日(火)の主な推移



①

早朝に元国際通貨基金(IMF)首席エコノミストのロゴフ氏が「中国の不動産市場の崩壊が始まりつつあり、同国の銀行システムに打撃を与える」との見方を示したことや、また中国紙が「中国が第3四半期までに新たな不動産規制を導入する」と伝えたことにより、市場では中国の景気拡大ペースの鈍化や金融引き締めが想起された。また日経平均株価の年初来安値更新も加わり、市場ではリスクを回避する動きが優勢となり、ユーロ/ドルは1.2477ドル、ユーロ/円は109.15円、豪ドル/円は72.70円まで下げた。しかしその後上海株式市場が堅調に推移したことにより、リスク回避の動きは後退した。

②

豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを発表した。またその後の声明も前月と比べ大きな変化はなく、一部で噂された弱気な見通しとはならなかったことが手掛かりとなり、豪ドル/円は反発した。

③

米6月ISM非製造業景況指数は53.8と事前予想を下回り、市場ではドル売り・ユーロ買いの流れとなったことから、ユーロ/ドルは5月21日以来となる1.2663ドルまで、ユーロ/円は110.91円まで上昇した。しかし米ダウ平均株価が徐々に上げ幅を縮小させると、ユーロも緩やかに値を下げた。

### ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスクの緩和(ユーロ上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスク(ユーロ下落要因)

### 豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

### 本日の見通し

#### 本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.2480-1.2790ドル  
 ユーロ/円 : 109.20-111.40円

#### 本日の予想レンジ

豪ドル/円: 73.50-75.90円

欧州金融機関に対するストレステストの結果の公表が、今月 23 日に予定されている。一部では欧州金融機関の資産劣化が懸念されているものの、昨晩はストレステストを無事消化できるのではないかと楽観論が市場を支配したため、ユーロ/ドルは反発した。暫くはストレステストを意識した相場展開が予想されることから、その動向には注意したい。そのほか本日は主だった経済指標の発表も予定されておらず、主要国の株価に左右されやすい展開が予想される。(川畑)

昨日のRBA理事会では政策金利発表後の声明にて、前回と比べ大きな変化は無かった。だが「短期的なインフレは3%を超える見通し」と述べたことで、一部で噂された利下げ論が後退し、豪ドル/円は反発。その後も底堅い展開が続いた。ただ「7月後半に発表される第2四半期インフレ統計待ち」に変わりは無いと見られ、大きくはポジションを傾けにくい展開が予想される。(川畑)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/7(水)	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期 GDP・確報 [前期比]	+0.2%	+0.2%
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期 GDP・確報 [前年比]	+0.6%	+0.6%
	19:00		(独) 5月製造業受注 [前月比]	+2.8%	+0.3%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。